

仙台市環境審議会 第1回「杜の都環境プラン」改定検討部会

議事要旨

日時：令和元年8月7日（水） 9:00～11:00

場所：仙台市役所本庁舎2階 第四委員会室

I 次第

1 開 会

2 議 事

- (1) 検討部会の進め方について
- (2) 環境施策をとりまく状況と本市における取り組みの評価等について
- (3) 「杜の都環境プラン」改定に向けた市民参画の取り組みについて
- (4) その他

3 閉 会

II 出席委員数

出席 4名

欠席 3名

III 議事要旨

司会	議事に移る。 以降の進行については、仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則第5条第1項に基づき、永幡部会長に願います。
議長（永幡部会長）	まず、議事に入る前に、仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則第7条第5項に基づき、部会長に事故があるとき、その職務を代理する部会長代理を選出する。部会長代理については、規則によれば、部会長が指名することとなっており、本日はご欠席だが、環境審議会の副会長でもある中静委員を部会長代理に指名したいが、いかがか。
各委員	異議なし。
議長（永幡部会長）	それでは中静委員には、後日私から打診し、指名するということで部会長預かりとさせていただく。 次に、会議の公開、議事録の署名について確認させていただく。 会議の公開に関しては、環境審議会の運用にならない、本部会についても、個人のプライバシーに関することなどで、非公開の必要がある場合以外は、原則として会議を公開することとしたいと思うので、皆さまよろしくお願

	<p>する。</p> <p>次に、議事録の署名については、こちらも環境審議会の運用にならない、部会長と出席委員1名の署名をもって正式な議事録とすることとしたい。今回は、五十音順で、青木委員にお願いしたいが、よろしいか。</p>
青木ユカリ委員	了承した。
議長（永幡部会長）	<p>それでは議事に入る。</p> <p>議事（1）検討部会の進め方について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	（資料1に基づき説明）
議長（永幡部会長）	ただいまの説明に対して、ご質問やご意見等をお願いします。
各委員	（意見なし）
議長（永幡部会長）	それでは、本部会については、今後このように進めることとする。
議長（永幡部会長）	<p>続いて、議事（2）の「環境施策をとりまく状況と本市における取り組みの評価等について」に移るが、資料にボリュームがあるため、内容を区切って議論していきたいと思う。</p> <p>資料2-1の1ページ目に、目次を示していただいているが、まず「Ⅰ 環境施策をとりまく状況」について事務局より説明いただき、皆さまからご意見を伺い、次に、「Ⅱ 本市における取り組みの評価と今後の方向性」のうち、「1 低炭素都市づくり」について議論し、さらに、「2 資源循環都市づくり」について議論するというように、項目ごとに区切りながら議論を進め、最後にもう一度全体を通して皆さまのご意見を伺いたいと思う。</p> <p>それでは、「Ⅰ 環境施策をとりまく状況」について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	（「Ⅰ 環境施策をとりまく状況」について、資料2-1に基づき説明）
議長（永幡部会長）	ただいまの説明に対して、ご質問やご意見等をお願いします。
風間聡委員	資料はよくまとまっていると思うが、国や世界の動きに対して、具体的に仙台市がどういう対応をしたのか、どういったことを考えているのかということについては、後ろに書かれているということによろしいか。
事務局	この資料では、主にこれまでの取り組みに対する評価や課題の洗い出しをしているが、ご説明したような環境施策をとりまく状況を踏まえた、今後の方向性についても、事務局の案としてお示ししている。
風間聡委員	そうすると、最終的なとりまとめをするときには、こういった動きに対して、仙台市がこのように対応した、というようなダイアグラムをつくるのか。

事務局（環境部長）	<p>ダイアグラムの形になるかどうか、最終的なまとめ方は今後ご相談させていただきたいと思うが、背景に対して、どのように対応したかを検証し、その上で新しいプランを考えていくことが重要だと思う。</p>
議長（永幡部長）	<p>まとめていただいた世界や国の動きとしては2018年、2019年のものが多いので、今後、環境プランの中でどうするかということを中心に議論できればよいと思う。</p> <p>他に意見がなければ、続いて、「Ⅱ 本市における取り組みの評価及び今後の方向性」のうち「1 低炭素都市づくり」について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	（「1 低炭素都市づくり」について、資料2-1に基づき説明）
議長（永幡部長）	ただいまの説明に対して、ご質問やご意見等をお願いします。
齋藤優子委員	<p>国の方でも「気候変動適応法」が施行され、「緩和策」に加え、「適応策」にも力を入れていくというような方向性があると思うが、ただ今の説明によると、仙台市では、「適応策」をリスクの低減というよりは、リスクに備えるという形で、どちらかという防災につなげて考えているという認識でよろしいか。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>お話しのとおり、「気候変動適応法」が昨年12月に施行され、自治体でも地域に応じた「適応策」を推進していくよう努めることとされた。また、6月に答申をいただいた「本市における地球温暖化対策のあり方」の中でも、「適応策」の推進が掲げられたところである。</p> <p>今後、「適応策」を防災につなげて考えていくのかというご質問だが、本市は、震災の経験を踏まえ、防災環境都市づくりを推進しており、そこを踏まえることは重要だと考えている。しかしながら、災害に備えるだけでなく、今、全国各地で大きな問題となっている猛暑による熱中症といった健康被害への対策や、農作物に関する対策など、関連する分野で幅広く「適応策」に取り組むことが必要と考えている。</p> <p>本市も様々な施策を実施しているが、必ずしもそれが「適応策」として認識されていないところがあるので、まずは庁内的にも、我々が実施している施策のどれが「適応策」として重要であるのか、そして、それを市民の皆さまに今後どのように周知していくのかというようなことも考えながら、取り組んでいきたいと考えている。災害に備えることは非常に重要だが、それに特化するのではなく、幅広く考えているとご理解いただければと思う。</p>
齋藤優子委員	了解した。
議長（永幡部長）	今の話に関連して、資料2-1の18枚目のスライド、今後の方向性について、気候変動リスクというところに「防災の視点も含めた『適応策』」の啓発

	及び推進」とあるが、防災に重点を置くように受け取られかねない記載になっているので、表現を検討した方がよいのではないかと感じた。
事務局（参事兼環境企画課長）	検討させていただく。
風間聡委員	<p>よくまとめられているが、こうした行政が作られるものは、総花的なことが書かれていて、どこが売りなのかがよくわからない傾向にある。今の「適応策」の話もあるが、今後はどこに注力するというような記載があってもよいのではないかと感じた。</p> <p>次に、例えば、13枚目のスライドに「エネルギー効率の高い都市構造」とあるが、これが、コンパクトシティのようにすごく都市化した状況をイメージしているのか、あるいは、田園都市のように分散型で自然と共生しているような都市をイメージしているのか、よくわからない。全体的にそうなのだが、キャッチフレーズでいろいろ書かれているが、それがどういったものなのかイメージしにくい。そこら辺を示してもらえると、仙台市が具体的にこういうことがやりたいというのがわかるのではと感じた。</p> <p>最後に、例えば、18枚目のスライドの今後の方向性として、「温室効果ガス排出削減の取り組みを加速」と書いてあるが、そのために何するのかという話が触れられていない。今後どうやって加速させるのか、仙台市の業務を増やすのか、それとも新しいアイデアを出すのか、どこかと協働して加速させるのか、そういった具体的な施策についてもうちよっと思き込んでもらえると、非常にわかりやすいと思った。</p>
事務局（環境部長）	<p>今回は第1回目の検討部会ということもあり、まずは現行のプランの振り返りということで、今後の方向性については余り書き込めていないというのが正直なところである。</p> <p>表現の部分については、ご指摘のキャッチフレーズも含め、今後、プランとしてまとめていく中で、委員の皆さまにご議論をいただきながら、検討していきたいと考えている。</p> <p>また、次のプランでどこに力をいれていくのかという点については、仙台の特色はなにか、逆に頑張らなければいけないところはどこなのか、あとは、予算的な制約もあるので、どれを選択して、どれに集中していくのかというような作業を踏まえた上で、それらをお示ししながら、どこをとがらせていくのかというような議論をいただきたいと考えている。</p>
議長（永幡部会長）	どれを優先的に取り組むかというようなことも、今後、この部会で議論できるということか。
事務局（環境部長）	事務局で考えたものをお示しさせていただきながら、委員の皆さまの専門的な立場から、ご議論いただければと考えている。

議長（永幡部会長）	<p>他に意見がなければ、次に進むが、必要に応じて戻ってご発言いただければと思う。</p> <p>それでは、続いて「2 資源循環都市づくり」について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（「2 資源循環都市づくり」について、資料2-1に基づき説明）</p>
議長（永幡部会長）	<p>ただいまの説明に対して、ご質問やご意見等をお願いします。</p>
齋藤優子委員	<p>何点かお伺いしたい。</p> <p>1点目は、20枚目のスライドで、定量目標の1つであるリサイクル率についてはずっと横ばいの状況が続いているが、2020年度に35%という目標値はどのような考えで設定しているのか。</p> <p>2点目は、22枚目のスライドで、紙類の定期回収が減少傾向とあり、データとしてもお示しいただいているが、これには、子供会などで実施している地域の集団資源回収のデータも含まれているのか。</p> <p>3点目は、26枚目のスライドで、ごみ焼却により発生する熱の活用とあるが、これは実際にどのように具体的にやられているのか。</p>
事務局（廃棄物企画課長）	<p>1点目のリサイクル率の目標については、環境プランの個別計画である「一般廃棄物処理基本計画」の目標値に合わせている。約10年前に策定した計画であり、35%という目標値をどのように設定したのかについては、手元に資料がないためお答えできないが、35%の目標値に対して現在29%となっている一つの理由としては、ここに記載のとおり、当初はもう少し資源物が出てくるのではないかと想定していたが、電子出版等の拡大によって古紙類が減っているという状況や、スチール缶などの缶類の利用自体がそもそも少なくなってきたということもあって、リサイクル率が伸びていないという状況である。</p> <p>2点目の紙類の定期回収に関するデータについて、こちらは集団資源回収で集めている古紙は含まれていない。なお、データとしてお示ししていないが、集団資源回収についても減少傾向にある。</p>
事務局（施設課長）	<p>3点目のごみ焼却により発生する熱の活用について、本市は清掃工場が3カ所あり、それぞれ隣接する温水プールで余熱利用を行っている。また、蒸気をつくり、タービンを回して発電しており、発電した電気については、清掃工場の電源として活用するほか、余った電気については電力会社に売電している。</p>
議長（永幡部会長）	<p>今の話に関連するが、例えば、リサイクル率の目標値は35%ということだが、紙や金属など、物によってそれぞれ動きはばらばらだと思う。それを総じて35%という目標にしてしまうのは、数値としては一見わかりやすいが、</p>

	<p>本当に対策しなければいけないものが何なのかぼけてしまうと思う。今後、新しいプランをつくっていくときには、そういうぼやけた目標のつくり方というのは避けたほうがよいのではないかと考えている。</p>
事務局（廃棄物企画課長）	<p>こちらの検討部会の議論と並行して、次期「一般廃棄物処理基本計画」の策定に向けて、廃棄物対策審議会において議論を進めており、その中で、目標のあり方も含めて、これから議論してまいりたいと考えている。</p>
風間聡委員	<p>リサイクル率は、国の定義に基づいて出しているのか。</p>
事務局（廃棄物企画課長）	<p>独自の算出方法による。</p>
風間聡委員	<p>そうであれば、部会長のご指摘のとおり、考え直してもよいかもしれない。</p>
青木ユカリ委員	<p>25枚目と26枚目のスライドによれば、地域ごみ出し支援活動促進事業や、外国出身の方向けの多言語ごみ排出ルールのDVD作成に取り組まれているとのことだが、こうした取り組みに対して、地域や町内会、関連するNPOの方々からの反応はいかがか。</p>
事務局（家庭ごみ減量課長）	<p>地域ごみ出し支援活動促進事業については、昨年10月からスタートした事業であり、現在のところ、21団体が登録をしている。活動している団体が6、7団体とまだ少数だが、団体からのヒアリングの中では、支援されている方からも、支援している側からも、非常によい制度だという評価をいただいている。今後もこの事業を広げていく中で、地域の声を聞いていきたいと考えている。</p> <p>また、外国人の方々に対する取り組みについては、昨年度、ごみ排出ルールを解説する動画をホームページにアップしたことに加え、外国人の方が多い企業や自動車学校などに出向いて、出前講座も実施している。その中では、日本の制度がなかなかわかりにくいので、説明をしてもらって非常に助かったというようなお話もいただいております、こちらの出前講座も充実していきたいと考えている。</p>
風間聡委員	<p>この章は、定量的な目標値があって、すごくわかりやすいと感じた。目標値は、個別計画の中で設定されているとの話だったが、環境プランをつくるときに、こういった目標値があると励みにもなるし、次回改定の際の評価にも使えるので、定量的な目標値を設定することは大事だと思う。</p> <p>次に、先ほどリサイクルの話が出ていたが、例えば、仙台市は、下水でもリサイクルに取り組んでいると思うので、そういったものも盛り込まれると、アピールポイントになるのではないかと思った。</p> <p>それから、この章は、「資源循環都市づくり」ということだが、資源には、水資源という考え方もあると思う。物質的な資源のみで統一するのもよいが、そういった観点も含めることを考えてもよいのではないか。</p>

	<p>最後に、27枚目のスライドの今後の方向性について、「災害等に対する強靱化を図るなど」という表現に違和感を覚えた。災害の話が突然出てきて、唐突感があった。おそらく、津波や洪水があったときに出てきた大量のごみを処分するため、施設の容量を確保するという話だと思うが、そういう視点が本当に必要なのかと感じたが、いかがか。</p>
事務局（施設課長）	<p>災害等に対する強靱化を図るというのには、お話のような災害によって発生する廃棄物を適切に処理するという視点と、災害が発生しても施設が稼働し続けられるような対策をするという2つの視点があると考えている。</p>
風間聡委員	<p>災害などで廃棄物が大量に発生したときに対応できるということは、普段その施設は動いていないということになるので、効率の面からいえばよくないし、無駄な部分をつくっておくというふうに取り残されてしまう。再現確率などを考慮して数値であらわすという手法もあるが、仙台市としてどのように考えるのかを示しておく必要があるのではないか。</p>
事務局（施設課長）	<p>例えば、国においても推進している施策の一つとして、災害時等に停電になった場合でも、焼却炉を立ち上げることができるように非常用発電機を備えるといった対策もある。</p>
事務局（環境部長）	<p>ご指摘のハード的な余力なのか、あるいは、震災の経験や教訓を踏まえたソフト的な対応という部分もあると思うので、そういった総合的なアプローチはあり得ると思う。この表現だと、わかりづらい部分があると思うので、プランをつくっていく段階では、もう少し丁寧な表現にしていく必要があると思う。</p> <p>もう一つは、目標値について、今、計画をつくろうというときには、必ずKPIとかそういったものを求められているので、丁寧につくっていく必要があると考えている。ただし、例えば、ごみの総量で言えば、人口がどのように推移するのか、あるいは、省エネといっても、技術革新が進んでいくと、エコカーが当たり前の時代になるように、市民の努力というよりも技術が下げてくれる部分が多いなど、様々な影響が考えられるので、適正なKPIが何かという議論も必要だと考えている。</p>
議長（永幡部会長）	<p>その辺りは、今後の議論ということでよろしいか。</p>
事務局（環境部長）	<p>いずれどこかの段階で、こういった指標も考えられるのではないかと、という案を提示させていただくような流れになるかと思う。</p>
齋藤優子委員	<p>先ほどの風間委員のご指摘は、そのとおりだと思った。災害等に対する強靱化という文言は、何をどのように強靱化することを目指すのか明確でない点で少し違和感がある。一つの意見だが、例えば、国の「第4次循環型社会形成推進基本計画」では、地域に新たな価値を生み出す廃棄物処理施設とい</p>

	う文言があったと思うので、そういった考え方を盛り込んでどうかと感じた。
事務局（環境部長）	防災環境都市ということで、どうしても震災の経験とか、強靱化というようなところに意識がいきがちだが、現在のトレンドなどを踏まえ、今後を見据えた適切な表現になるよう検討してまいりたい。
議長（永幡部会長）	<p>恐らく、仙台市らしいというものをつくろうと思ったときに、東日本大震災で得た教訓を盛り込むこと自体は、大事なことだと思うので、違和感が出ないように考えていただきたい。</p> <p>あと1点、今後の方向性について、いわゆる3Rで見たときに、リデュースとリサイクルに関しては明示されているが、リユースにあたる表現が抜け落ちているのが残念だと思った。減らすものは減らす、資源としてリサイクルするというのも大事だが、使えるものをもう一回使うというのも大事だと思う。</p>
事務局（環境部長）	これから市民の皆さまにこのプランでいろいろなメッセージを伝えていこうというときに、一番身近な部分かもしれないので、気をつけていきたい。
議長（永幡部会長）	<p>この項目について、他はいかがか。</p> <p>それでは、次の「3 自然共生都市づくり」に移りたいと思う。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	（「3 自然共生都市づくり」について、資料2-1に基づき説明）
議長（永幡部会長）	<p>ただいまの説明に対して、ご質問やご意見等をお願いします。</p> <p>私のほうから一つ、30枚目のスライド、身近な生きものの認識度を現在より向上させるという定量目標についても、それぞれの生きものの認識度を単純に合計してしまっているが、本当によいのかと気になっている。例えば、カッコウは認識度が上昇したが、トンボの認識度が下がってしまった場合は、それをどう評価するのか。これは単純に足し合わせるようなものではないと感じている。</p> <p>さらに、単に認識度が高ければよいのかという問題もある。例えば、カッコウの鳴き声を知っている人が多いだけではなく、市の鳥として仙台にカッコウがいなかったら意味がない。目標としては、認識度を向上させるというよりは、みんなが鳴き声を聞いたという経験を増やすとか、実質的なものにしておかないと、本当に目指しているものと目標との間に乖離ができてしまうのではないかと考えている。</p>
事務局（環境共生課長）	生きものの認識度について、確かに現行の計画では、9種類の生きものの認識度を単純に足し合わせて、基準年より上がっているのか下がっているのかという形で評価しているが、今年度の調査結果については、速報値ということで、これからその辺の要因を分析していきたいと考えている。例えば、

	<p>ツバメなど生きものの種類によっては認識度が上がっており、これがそれぞれの地域でどういった形で推移しているのか、また、地域の植生の状況と整合があるかなどについて分析しながら、評価してまいりたいと考えている。</p> <p>もう一つ、生物多様性保全の観点から、市の鳥であるカッコウなど、仙台ならではの身近な動植物について、まずは知っていただくということが非常に大事だと認識している。現在、生物多様性保全推進事業ということで、例えばカッコウの生息地であるヨシ原において観察会などを実施しており、そういった具体の取り組みの中で、部長がおっしゃられるような効果を狙っており、今後とも取り組んでまいりたい。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>多少補足させていただくと、生きもの認識度というふうにお示ししているが、この調査自体は、この1年間でこれらの生きものを見たり、鳴き声を聞いたことがあるか、というような問いになっており、そういう意味では、先ほど部長がおっしゃったような、市民の皆さまの体験を踏まえた調査結果になっている。また、合計値もお示ししているが、左側のチャート図のとおり、生きものごとの認識度についても評価できるようになっている。ただし、どのような調査がより適切なのかということや、目標をどういうふうにしていくのかについては、今後ご議論をいただきながら検討してまいりたい。</p>
議長（永幡部長）	<p>了解した。それぞれの生きもの認識度がわかるようにグラフを示してくれているが、目標値があると、ついそっこのほうに議論が行きがちである。それがもったいないと感じており、より意味があるものに目が行くような形にしていければと思う。</p> <p>他はいかがか。</p>
青木ユカリ委員	<p>35枚目のスライド、緑を守り増やすというところで、この資料に情報は入っていないが、こういったものに参画している市民の人数や、年間を通しての取り組みの回数、あるいは助成金額であるとか、寄附が地域にどう還元されているのかなどについても数値を出していただけると、市民も自分たちの取り組みがここに入っていると再確認できるし、逆にこれから活動に参画したい人達にとっても情報が伝わるのではないのかと思った。この分野に限らず、市民の参加があって成り立っている取り組みは数多くあると思うので、少し見せ方というのを工夫していただけるとよいと思った。</p>
事務局（環境部長）	<p>青木委員がおっしゃった市民参画の部分は、今後のこの計画を考えていく上で非常に重要な論点だと考えている。</p> <p>環境基本計画は、環境局だけの計画ではなく、庁内の様々な部局が関わりますが、市民参画という点では、市民局も情報を持っており、そういった部局とも連携しながら、縦割りにはないように私たちがポイントになって調整</p>

	<p>していきたい。また、市民が参画することによって、「杜の都」が「静」から「動」のイメージにつながっていくと思うので、その辺は意識していきたいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>以前、環境審議会で、たしかSDGsの議論だったと思うが、中静委員が、環境局が全庁を乗っ取るぐらいの勢いはないのかというような発言をされていたことを覚えているが、ぜひそういうところともうまく連携をとっていただけるとよいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>この項目について、他はいかがか。 それでは、次の「4 快適環境都市づくり」に移りたいと思う。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（「4 快適環境都市づくり」について、資料2-1に基づき説明）</p>
議長（永幡部会長）	<p>ただいまの説明に対して、ご質問やご意見等をお願いします。</p>
風間聡委員	<p>42枚目のスライド、取り組みの評価と課題というところに、環境状況の監視とあるが、これ以外にも、環境局ではいろいろなデータを収集されていると思うし、環境アセスメントでも多くのデータが出てくるが、そのまま埋もれてしまっているのがすごくもったいないと思う。そういったデータをきちんとまとめておくというようなことを、次のプランにぜひ盛り込んでいただきたいと思う。環境局だけではなく、他の部局にもいろいろなデータがあると思うが、そういったデータを積極的にデータベース化して、将来のアセットとして残せるとよいと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>確かに行政が持っている情報は、行政のみならず、様々なステークホルダーの方が考えるときのベースとなっている。公開はしているが、分散していて、使いづらい部分も多い。これは環境局だけの話ではなく、全庁的に言えることだろうが、例えばこのサイトに入っていけば、基本的に必要な情報は集約されているというような仕組みがあるとよいのかもしれない。</p>
風間聡委員	<p>環境局がリーダーシップをとって、そうしたデータを、環境データとして集めるような事業が行えると、皆から賛同を得られると思うし、効果も高いと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>私から2点申し上げたい。 1点目は、環境基準を達成しているかどうかを評価することは絶対にやらなければいけないことは認識しているが、それだけでは不十分だという点である。例えば騒音の場合、WHOのガイドラインの値を見ると、日本の環境基準はすごく緩い。つまり、環境基準は最低限守らなければいけないものだが、守ったからオッケーという話ではない。さらに言うと、新幹線を除く鉄道には、環境基準すらない。環境審議会でも、貨物の問題について何度か意</p>

	<p>見があったが、ああいう問題が埋もれてしまっていることはよくないと思う。環境プランは、よりよい環境にしていくためにつくるのであれば、現時点で残ってしまっている公害問題を片付けていかないといけないと思う。</p> <p>もう1点は、41枚目のスライド、景観・歴史・文化等に優れた多様な地域づくりを進めるというところについて、音とか視覚以外の五感にかかわるものの重要性がどんどん忘れられてしまっていて、そういうものをもっと環境プランのほうから積極的に踏み込んでいけるとよい。例えば、静けさが楽しめる地域というのは、環境基準では評価できないけれども、音の問題としては重要な問題だと思う。以前、環境庁が「残したい日本の音風景100選」を選定した際に、100選に選ばれた自治体の集いをやっていたのだが、仙台市でもやったはずだ。昔、仙台市ができたということは、やはり先進的な活動をしていたからだと思うので、過去の大事な実績をもう一回掘り起こして、さらに今の時代に合わせた形でやれると、「仙台市、やるなあ」と思われると思う。そういうプランをつくってほしいし、それを実現してほしいと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>埋もれた課題と、埋もれた価値という2つのご指摘があったと思う。</p> <p>埋もれた課題については、基準があるということで、これは私たちが粛々とやっていく部分だが、それを全部守れたからといって、その都市が快適かどうか、住みよい都市なのかどうかは違う問題だというご指摘だったと思う。ただし、それが市域全体の問題なのか、それとも局所的な問題なのかという議論もあろうかと思う。プランの内容を検討していく段階で、ご相談をさせていただきながら、書き込みをしてきたいと思う。</p> <p>2つ目の埋もれた価値については、「杜の都・仙台」は、見るだけではなく、季節を肌で感じる、味わう、広瀬川の清流の音やスズムシなどの虫の声を聞く、というのもすごくいい話だと思う。そうした五感も意識していくと、プランの中で新しさが出るのではと感じた。</p>
齋藤優子委員	<p>先ほどの「自然共生都市づくり」のところにもつながってくるが、景観・歴史・文化というところも含めて考えると、地域づくりに主体的、能動的にアクションが起こせるような仕組みづくりを考えていく必要があるのではないかと思う。データの整備や、それをどう発信していくかということも大事で、それを見た人たちが、自分がどういったところに参加できるのかを自発的に考えられるような枠組みづくりが重要だと思う。啓発や環境教育というものもあると思うが、そういったところを考えていく必要があると思った。</p>
議長（永幡部会長）	<p>次の項目での議論にも関わってくるかもしれない。</p>
事務局（環境部）	<p>今、お話しいただいた内容は重要だと思うので、部会長のおっしゃるとお</p>

長)	り、次の項目でも情報提供させていただきながら、議論させていただければと思う。
議長（永幡部会長）	この項目について、他はいかがか。 それでは、次の「5 良好な環境を支える仕組みづくり・人づくり」に移りたいと思う。事務局から説明をお願いします。
事務局	（「5 良好な環境を支える仕組みづくり・人づくり」について、資料2-1に基づき説明）
議長（永幡部会長）	ただいまの説明に対して、ご質問やご意見等をお願いします。
風間聡委員	46枚目のスライド、日常生活における環境配慮行動の実践状況について、「18 環境に関する講座、イベントに参加する」という項目が非常に低いが、原因がわかれば教えていただきたい。 また、48枚目のスライドに「地域環境力」という言葉が出てくるが、これはどういったものをイメージしているのか。これを定義しろとは言わないが、先ほども話をしたとおり、「地域環境力」とはどのようなもので、仙台市はどのようなことを目指しているということを説明していただかないと、わかりにくいと思った。
事務局（環境部長）	1点目について、講座やイベントへの参加というのは、わざわざ出かけて行く必要があり、日常生活の中でできるリサイクルへの取り組みなどに比べると、その辺の差が出るのかもしれない。 もう1点の「地域環境力」という言葉は、現行のプランで使っているものだが、今後、新しいプランをつくっていく中で、なるべくわかりやすい表現で書いていければと思う。
事務局（参事兼環境企画課長）	補足させていただくと、「講座やイベントに参加する」の回答割合が低いということだが、「今後したいと思う」との回答は40%を超えており、関心はお持ちだという結果となっている。 なぜ行かないのかという点については、設問がないため分析ができていないが、講座のやり方や内容、あるいは、わざわざ遠くまで出かけて参加するのは難しいが、近いところであれば参加したいなど、いろいろな事情があるのではないかと推測している。
風間聡委員	ポテンシャルはあるということなので、あまり魅力のある広報がなかったのか、あるいは、バス代を払ってまで行きたくなるような講座が少なかったのかもしれない。そこら辺も、今後のプラン中で、より魅力的で人が集められるような講座やイベントをやっていくことを盛り込めるとよいと思った。 もう1点、最後の51枚目のスライドで、情報の発信について記載があるが、行政は、情報発信が下手なところがあって、例えば、パブコメをしても、全

	<p>然意見が来ない。例えばマスコミと組んで何かやるとか、ぜひこちら辺もいろいろ考えていただいて、積極的に取り組んでもらえたらなと思う。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>多少弁解になるが、青葉山のたまきさんサロンでの講座では、募集人数を超えて抽選になるような講座などもあり、そういう点では、東北大学や環境団体のご協力もいただきながら、いろいろと工夫して取り組んでいるところである。ただし、委員がおっしゃるような、より魅力的な講座を企画するなど、市民の皆さまにご参加いただけるように、今後も工夫が必要だと認識している。</p>
議長（永幡部会長）	<p>仙台市は広いので、たまきさんサロンだけではなく、何方所か出張所みたいなものがあると本当はよいのかなと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>人が集まる既存のイベントに我々が出向いていくというのもあるかもしれない。</p> <p>例えば、私どもでも、7月末に市民広場で開催されたTBC夏まつりにブースを出展して、現在、仙台市はどんな環境にあると思うか、また、将来どうあったらよいと思うか、という2問について、5つの都市像の中から選んでシールを貼ってもらうという形式で、来場者の方にアンケートをとった。その結果については、次回お示ししたいと思うが、700人ぐらいの方にご回答いただいた。市民参画の取り組みについては後ほどご説明するが、このような工夫をしていければ、広がりが出てくると考えている。</p>
青木ユカリ委員	<p>今のお話と重なるとは思うが、1カ所だけで賄えるかということ、そうではないと思うので、いろいろな場所、人や団体をどう掛け合わせながら届けるかということかなと思った。特に東部では、新しい地域で暮らしを始められるようになり、人が集まり、また、活動の場所もあるなど、様々な資源が集まっているので、それらを活かし合わせるという視点が、プランの中に盛り込まれるとよいと思った。</p> <p>あと、仙台は、海から山までフィールドがあるので、ここに行かないと体験できないというものを際立たせるとよいのではないか。担い手もプロフェッショナルを発掘するような視点で、このことだったら誰にという情報が、みんなが共有されている環境があったらよいと思う。</p>
議長（永幡部会長）	<p>仙台の環境の特徴は、今おっしゃったように海から山まで全部そろっているということだと思うので、それぞれの地域の特性を活かすということが重要だと思う。「杜の都」というと、都心部の緑をイメージしがちだが、いろいろな環境があるというところをもっとアピールする必要があるかもしれない。</p>
事務局（環境部長）	<p>「杜の都」の多様性を活かすという視点はあると思う。</p> <p>また、環境の主流化というのか、いろいろな事業やイベント等に環境の要</p>

	<p>素を埋め込んでいくことができれば、意識しなくても環境に配慮した行動につながるような仕掛けができればと思った。</p>
齋藤優子委員	<p>今の議論を踏まえて考えたところとしては、この資料の中でも、地域の環境資源を活かすというようなことが書かれているが、国の環境基本計画の中でも、地域循環共生圏という形で、その地域固有の資源を活かすということが盛り込まれている。しかしながら、仙台の環境資源や地域の資源が何かということについて、市民の方々が認識できる機会はまだまだ少ない印象がある。たまきさんサロンでも、年代も幅広く、いろいろな講座をやっていたいてはいるが、横串を刺すような視点で考えていくことも重要だと思う。</p>
事務局（環境部長）	<p>私たちでも、仙台の環境に関わる資源はどのようなものがあって、どういうふうにあるのか、ということ念頭に置きながら、今後進める必要があると思った。</p>
議長（永幡部会長）	<p>他はいかがか。特になければ、全体を通して意見交換ができればと思う。</p>
風間聡委員	<p>今日の話聞いて、恐らく一粒で二度おいしいとか三度おいしいというようなものが幾つかあると思う。そういうものをたくさん集めていくとより効率的だし、有効な環境政策になっていくと思う。こういった分野ごとに、ブツ、ブツって切れたものとは別に、魅力的でいろいろなことができるプロジェクトというのを一つまとめてもらって、それを大きく育てていくというようなプランがあってもよいと思った。</p> <p>それから、市だけではできないような話もたくさんあると思うので、大学やNPO・NGOなど、いろいろな組織と協働しながら取り組む、みたいな話が全体のところであってよいのかと思った。</p>
事務局（環境部長）	<p>何か象徴的なプロジェクトというものをつくって、そのプロジェクトを動かすと、エネルギーやグリーン化、環境教育にもつながる、というようなものをつくって、何れかのタイミングで提示できるようにしたい。</p> <p>それから、市民協働については、仙台市もこれから人口が減少し、主体となる人たちが少なくなるので、パフォーマンスを高めていくためには、いろいろな方にもっと参画していただくというプロセスが必要になってくると考えている。</p>
風間聡委員	<p>ぜひ課や局を横断して取り組んでもらいたい。</p>
齋藤優子委員	<p>横串を通すという意味では、資料2-1の「良好な環境を支える仕組みづくり・人づくり」について、他の1~4の都市づくりと並列で書かれているが、本来、配置は違ったものになると思う。配置や位置づけというところも考えていくとよいと思った。</p>
事務局（環境部）	<p>配置というのはなかなか難しい部分があるが、環境を軸とした仙台市の政</p>

長)	策が透けて見えるようなものができたらよいと思うので、少し時間をかけて考えていければと思う。
青木ユカリ委員	<p>例えば、SDGsも17のゴールを立体で表しているのので、何か既存のものに寄せて、構造化というか、目指すものの図示化ができればと思う。</p> <p>また、改めてこの資料を拝見して、仙台はすごく豊かだと感じた。基礎的な取り組みは既に一定程度あると思うので、次のステージとして、市民も楽しく参画できて、新しい視点で生み出せるものがあればよいと感じた。</p> <p>最後に、「ICT技術」という表記は、技術という言葉が重複しているという意見が他の委員会であったので、お伝えしておく。それに加えて、情報発信だけではなく、全ての分野でICTの活用という視点を置いて、イノベータティブな部分を見せてもよいのではと感じた。</p>
事務局（環境部長）	<p>取り組みの構造化については、少し工夫の余地があると考えている。</p> <p>あとは、仙台らしさというものを追求したいと思った。仙台らしい都市を目指すためのプランであり、そのプランのために、私たちがこんな資源があって、これらを組み合わせた象徴するプロジェクトによって、仙台らしさが出てくる、というような構造にしていきたいと考えている。そして、そうなるとう仙台の新しい未来ができて、実はSDGsにも貢献するというような、そんな姿が描ければよいと思った。</p>
議長（永幡部長）	<p>本日は市のこれまで取り組みについてご説明いただいたが、それぞれのご専門の立場から見たときに、逆にここが取り組めていない、今後、市の環境施策としてこういうことも考えたほうがよいのではないかと、というのがあればお伺いしたい。そのあたりを先に出しておく、次回の議論が円滑に進むと思うので、もし何かあれば、ご意見をいただきたい。</p>
事務局（環境部長）	<p>本日は欠席されている委員の方々もいらっしゃるのので、後日メール等で事務局にお寄せいただければ、皆さまに共有させていただく。</p>
議長（永幡部長）	<p>先ほど、仙台らしさという話があったが、すごく重要なキーワードだと思うし、仙台らしさというのを考えるときに、何が必要なのかというのを考えていきたいと思う。いろいろな立場の委員が集まっているので、それぞれの立場からの意見を盛り込んでいけるというのは重要なことだと思う。そのためにも、今すぐ実現できるかどうかは別にして、挙げられる意見はぜひ一回挙げていただければと思う。</p>
事務局（参事兼環境企画課長）	<p>何かあればメールで頂戴できればと思う。私どももできる限り次の部会の資料に反映したいと思うので、可能であれば、お盆明けぐらいまでに頂戴できればと思う。</p>
議長（永幡部長）	<p>それでは、何かあれば、お盆明けぐらいを目途にお願いする。</p> <p>他になければ、この件は以上とする。</p>

	続いて、議事（３）の「杜の都環境プラン」改定に向けた市民参画の取り組みについて、事務局より説明をお願いします。
事務局	（資料３に基づき説明）
議長（永幡部会長）	ただいまの説明に対して、ご質問やご意見等をお願いします。
各委員	（意見なし）
議長（永幡部会長）	特にご発言がなければ、この件は以上とする。
議長（永幡部会長）	最後に、議事（４）その他だが、何かあるか。
各委員	（特になし）
議長（永幡部会長）	それでは、議事については以上とする。 事務局から連絡事項はあるか。
事務局	今後の日程について、次回の検討部会は９月１９日（木）９時からを予定している。会議の開催案内は、後日改めてお送りさせていただくので、よろしくをお願いします。
議長（永幡部会長）	以上で本日の検討部会の議事を終了する。 審議の円滑な運営にご協力いただき感謝する。

令和元年 9月19日

仙台市環境審議会

「杜の都環境プラン」改定検討部会 部会長

氏名 永幡 朝 (印)

仙台市環境審議会

「杜の都環境プラン」改定検討部会 委員

氏名 青木 2かり (印)